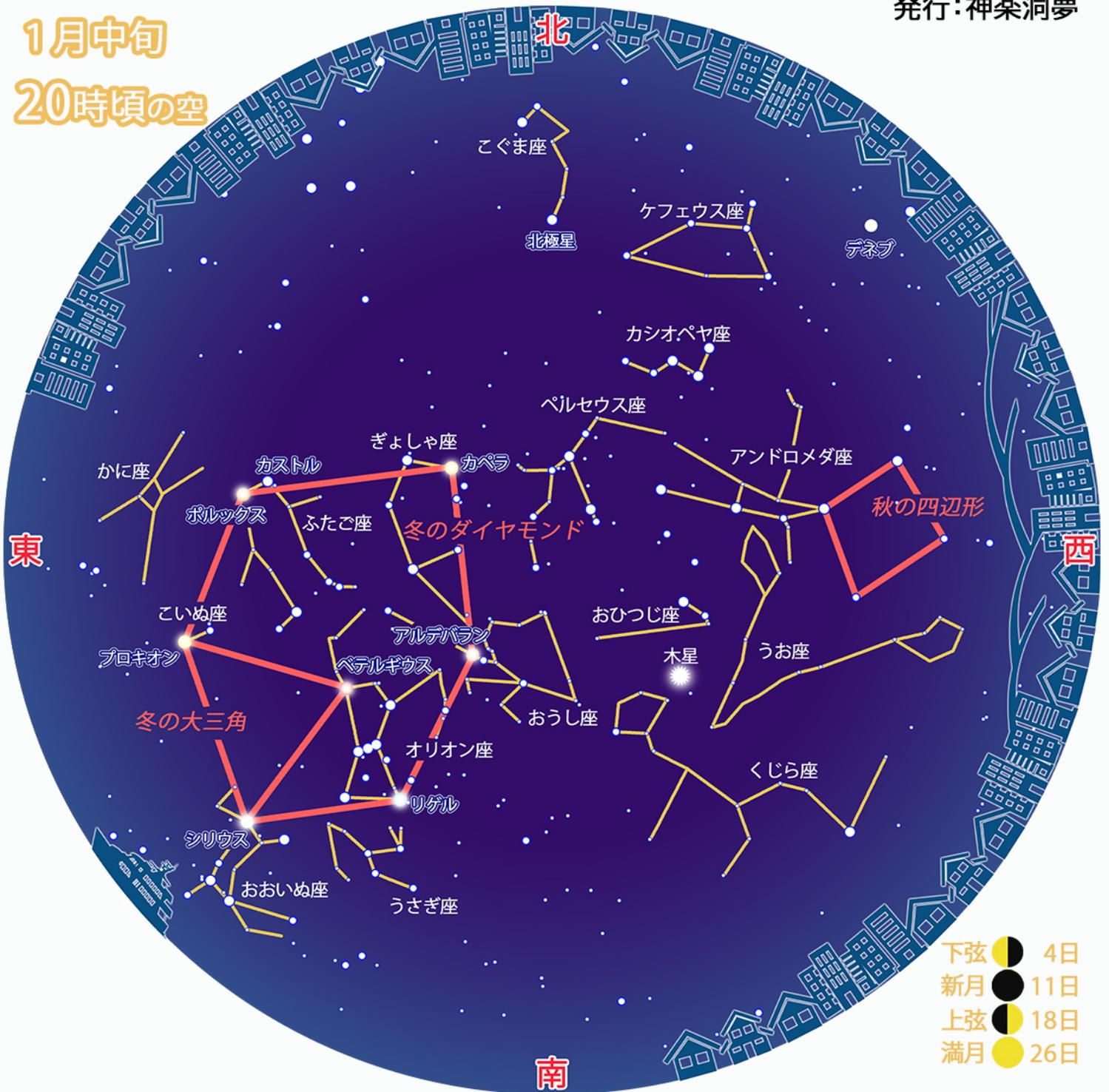


# 神楽通信 No.95

2024年  
1月号

発行:神楽洞夢

1月中旬  
20時頃の空



新しい1年が始まり、気持ちも新たに夜空を見上げると、木星の力強い輝きとともに南から東の空にかけては冬の明るい1等星たちが空を彩っています。なかでも目立つのは全天で最も明るく輝くシリウスでしょう。また、シリウスより高いところに輝く赤みを帯びた星のベテルギウスと周囲の明るい星を砂時計や鼓(つづみ)のように結べば、冬の星座の代表格でもあるオリオン座を見つけられます。

## 寒空に浮かぶ五つ星 ぎょしゃ座

冬の天の川に浮かぶ、少し歪んだ特徴的な五角形に結ばれる星座が「ぎょしゃ座」です。

「ぎょしゃ（馭者）」とは馬を操って馬車などを走らせる人のことで、2世紀にプトレマイオスによってまとめられた「トレミー48星座」にも数えられる歴史ある星座です。



1月中旬21時ごろの南の空

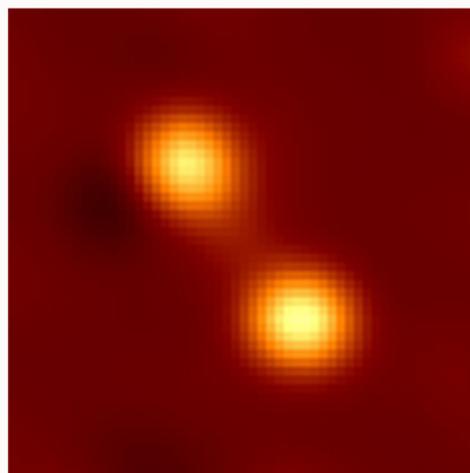
## 太陽と同じ色に輝く星 カペラ

ぎょしゃ座の中に「冬のダイヤモンド」をつくる1等星のひとつであるカペラがあります。その表面温度はおよそ6000度と太陽と同じため、明るいレモン色に輝いて見えます。

カペラには「小さな雌ヤギ」という意味があり、星座絵でも馭者が抱える小さなヤギの姿がカペラの位置に描かれます。

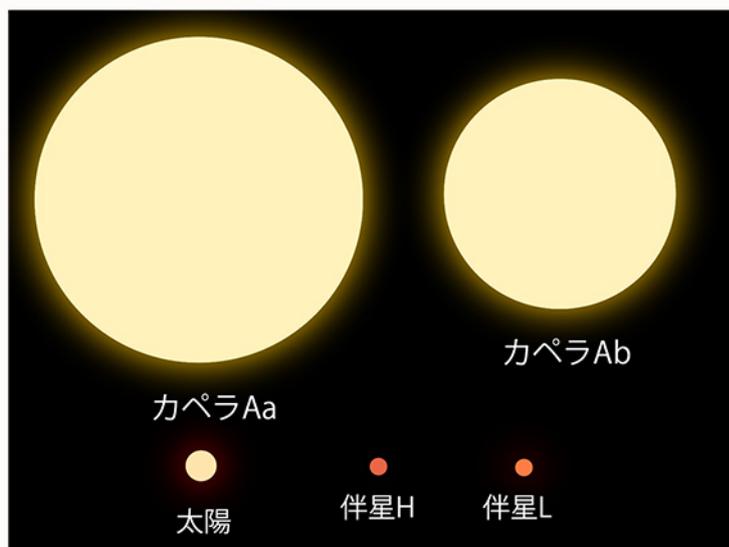
また、カペラの明るさは0.08等級と冬の星々のなかでもシリウスの次に目立つ星で、街中でもすぐ見つけられます。

カペラは肉眼で見ると1個の星のように見えますが、実は太陽のおよそ2.5倍の質量をもつ二つの連星の周囲を、太陽の半分程度の質量と考えられている二つの伴星が回る四重連星という複雑な姿をしていることが分かっています。



←ケンブリッジ大学の光学干渉計COASTによって観測されたカペラの姿

Credit:COAST/MRAO,CambridgeUniversity



カペラと太陽との大きさ比較